

DATA 神奈川県立平塚中等教育学校

合格実績 2019年度実績抜粋 ()は既卒生で内数

東京大5⁽¹⁾名 北海道大2名 東北大3名
千葉大2名 東京外国語大3名
東京工業大2名 東京農工大2名
横浜国立大3⁽¹⁾名 首都大学東京3⁽¹⁾名
横浜市立大(医学部)3名

筑波大/お茶の水女子大/東京学芸大
東京藝術大/一橋大/電気通信大
都留文科大/静岡大/琉球大 各1名 (順不同)

国公立大計37⁽⁴⁾名

早稲田大15名 慶應義塾大17名
上智大8⁽¹⁾名 自治医科大(医学部)1名
明治大38⁽¹⁾名 青山学院大16名
立教大21⁽³⁾名 法政大21⁽²⁾名
中央大26⁽³⁾名 東京理科大18名
東京農業大12名 学習院大5名
同志社大3名 立命館大6⁽¹⁾名
芝浦工業大13名 明治学院大12⁽²⁾名

私立大計506⁽³⁷⁾名

5期生卒業生数152名

詳細は県立平塚中等教育学校ホームページをご確認ください

access

平塚駅からバスと徒歩で20分、
道は平坦です。平塚市総合公園
に隣接した落ち着いた学習環
境です

神奈川県平塚市大原1-13
TEL (0463) 34-0320
FAX (0463) 34-3866

詳細は県立平塚中等教育学校ホームページをご確認ください



8期生



7期生



6期生

10年間積み重ねた強みを生かして。
東大4名現役合格の実績を次の10年につなげる。

2019年
6月12日
取材

4期生の京都大4名合格に続き、5期生は東京大に4名合格。公立校トップクラスの実績をあげ開校10周年の節目を迎えた平塚中等教育学校を6月12日に訪問しました。

地道な日ごろの積み重ね、そのシステムができてきた

「5期生は真面目にこつこつ取り組める学年でした。そして4期生・3期生同様に、自分が進みたい道、自分に合った学部・学科をしっかり持って受験に臨んでいました」と落合浩一校長先生。平塚中等教育第3代校長として4年目を迎えました。東大4名現役合格をはじめとした実績の背景には何があるのでしょうか。

「特効薬があるわけではありません。担任団が中心となり、キャリアグループが丁寧な対策を行うというシステムが年を経てできあがってきたというのがいちばんの理由だと思っています。5・6年次生はクラス替えなしで担任が持ち上がります。一人ひとりの希望進路と、合格のために必要な力をキャリアグループの先生方と一緒に丁寧に見極め、『この生徒に足りないのはここ、成果が出ているのはここ』というように、指導を担当する教員全員で共有し具体的な指導に生かしていく。まさに教員の組織力ですね。生徒も朝学習、放課後の自習や補習に取り組む。生徒と先生の地道な日ごろの積み重ねの結果です」

前期課程は生徒面談日。午後の授業がない代わりに、2週間後に迫った翠星祭・体育部門のダンス練習に励んだり図書室でまったり時間を過ごしたり、それぞれが学校生活を楽しむ姿が見られました。

平塚中等教育は学校行事や校外学習が多いのも特徴のひとつ。生徒の輝く場がたくさん用意されています。

次期10年に向けて
開校から10年。校舎にはWi-Fi環境も整いました。新大学入試も控える平塚中等教育はどのように次の10年をスタートしたのでしょ

「当たり前」がすごいこと

鈴木教頭先生に代わり、逸見直子先生が教頭に赴任されました。逸見先生から見た平塚中等教育生はどうでしょう。

「8時25分の朝読書や朝学習から始まり、5分休憩で組まれる授業では先生からの問いかけに考えを深めたり、発表しあったり。そして放課後には部活動や自習に励む。相当な力がつくだろうと思える日課に、生徒たちは当たり前のように生き生きと取り組んでいます。すごいことだと思いますね」

逸見教頭先生の案内で、後期課程の授業見学に。まずは来春受験を迎える6期生から。6年次生は単位制を生かし24単位分が各自の進路希望に合わせた選択科目です。数学授業では「これが出題されたのは東大と...」と実践的な演習が。それでも時折笑いも起る温かい雰囲気。授業が進んでいき

10年の歴史を感じるエピソード

5年次生、4年次生と見学していくと、教育実習生が授業をしているクラスが。指導に当たる先生は「彼が2年生のとき、僕が担任でした。生徒会副会長としても頑張ってくれたんですよ」とうれしそうに教えてくださいました。開校から毎年取材している身にとっても、感慨深いものがあります。



■教育実習で8期生を教える2期生



■入学して2カ月の2期生 (2010年6月17日取材)

養」。後期課程では課題(卒業)研究に取り組みます。その研究テーマは、自分の肌で感じた『なぜだろう』の疑問から始まりますが、果たしてそれが深い問いになっているのだろうか。そしてその解決のための道筋や取り組み方は適切なのだろうか。

課題(卒業)研究は答えのないものへの挑戦です。その成果を論文にするには分析的に物事をとらえ文章にするには分析的の力が必要です。これからの時代に求められる力そのものです。研究の質を高めるために、たとえばカテゴリごとに4年生5年生でチームを作ったり、外部機関・大学の協力体制をさらに充実させたりするなど、取り組んでいきたいですね」

その他、教育成果をどう評価するかのスケールづくりなど、落合校長先生にはさまざまな構想があらゆるようです。最後にメッセージをお届けして結びとします。

本校を目指す 小学生の皆さんへ。

本校は、一人ひとりの可能性を広げ夢を実現できる学校です。6年間の学びは、皆さんのいろいろな可能性を広げてくれることでしょう。不安はあるかも知れませんが、後期課程の先輩方も皆さんを温かく見守ってくれるはず。まずは本校を実際に見て、その良さを実感してみてください。

本校には、さまざまな個性を持った生徒がたくさんいます。その一人ひとりの個性に磨きをかけるのが、本校の教育です。皆さんもぜひ夢を持って本校を受検してください。皆さんの期待に応えられるさまざまなプログラムを用意して待っています。

神奈川県立平塚中等教育学校
校長 落合 浩一 先生

神奈川県立平塚中等教育学校
教頭 逸見 直子 先生

図書室点描



図書室は生徒の知的好奇心を刺激するだけでなく、ほっとできる憩いの場としても人気。図書館司書の方が工夫を凝らした図書紹介コーナーやカーペット敷きでくつろげるスペース。蔵書にはマンガも。



校舎点描



6学年が学校生活をともにする校舎と敷地はゆとりのある空間。さまざまな場所でさまざまなかたちで、生徒たちは先生方と一緒に学びを積み重ねています。

